

学校目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」

横浜市立蒔田小学校だより

平成28年度

8・9月号

平成28年8月29日



まいた

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/maita/>

校長 保科 泉

先日、スポーツ用品店に寄ったら、店頭
に並んでいる色とりどりのスポーツシ
ューズを食い入るように見たり触れたりし
ている小学生に出くわしました。その眼の
中にはリオの場面、そして自分の未来の姿
が映し出されているはずです。

リオから（主に夜中に）送られてくるオ
リンピックの映像で何回目頭を熱くし声を
上げたでしょうか。この学校便りに目を通
していただいている方は、年齢層、出身地、
国籍、更には経験したスポーツの種類等、
実に多様です。そのバックグラウンド（背
景）によって琴線・涙腺に触れるタイミン
グは様々でしょう。でも、その中で共通し
て感動を与えてくれる何かがあります。
人と人との極限状態の中での結び付き。

Come on You have to run!

陸上五千m女子で転倒したニュージーラ
ンドと米国の選手が、励まし合い助け合っ
て走り抜きゴールした姿は、誰の心をも揺
さぶったのではないのでしょうか。

それから地中海で沈みかけた密航船を命
がけて泳いで押し九死に一生を得た経験を
持つ難民選手団の女子水泳マルディニ選手
の「オリンピックは夢の舞台」という言葉
の深さにも感じるものがありました。

夏休み中は天候が不順で水泳教室の中止が相次ぎましたが、七月二十
八日に大岡小で行われた「南区小学校水泳大会」では、精一杯の力で泳
いだ選手のすがすがしさが強く印象に残りました。この大会をきっかけ
にもっと泳ぐことが好きになりこれからもがんばりたい、という選手代
表の言葉は、次の夢の舞台へのステップになつてくれればと思いました。

ご存じの通り、蒔田小学校では体育科の学習を通して、体力学力、そ
して人と共に生きる力の向上を目指して研究を続けています。子供たち
が社会人となつている頃は、今は想像しえない職業が現れ、反対にいま
あるのが当たり前前の職業の何割かが消滅してしまう、という専門家の予
想があります。地球の反対側で生まれた感動が、リアルタイムで伝わっ
てくる。そんな情報化の加速によるグローバル化、スピードアップの果
てにある未来。それに対応できる人間を育てていく役割を学校は担わな
ければなりません。それと共に、そんな時代だからこそ大切にしてい
かなければいけないのが「身体感覚」だと考えます。

夏休み直前に売り出されたゲームソフトは、現実の中にバーチャル（仮
想）な世界をつくり遊ぶという新しい発想で、世界中を席卷し予想もつ
かない課題も生み出しています。同じ時期に、相模原の障害者施設で凶
悪な事件が起きました。これは障害のある人に対して「命ある人」と
しての認識が決定的に欠けている憎むべき犯行でした。私はこの時「身
体感覚」が危うくなっているのでは？という懸念をもちました。

大活躍した体操の白井選手（横浜市出身！）のお父様の「（シライと
いう）世界中誰も出来ない技ができるということ、世界中誰も技につ
いて話し合うことができないということ。そんな時期に内村航平選
手と出会い、初めて同じ身体感覚で話し合える人に会えた」と喜色満面
で家に帰ってきました。「というお話がふと思ひ出されました。「身体感
覚を人と共有する」感覚を養えるような授業を目指していきたいと思ひ
ました。さて次はパラリンピック！